

大泉

大切な漢字・計算学習

校長 中岡 盛一

ご多用中のところ、多くの皆様が運動会にご参加いただきありがとうございます。今年度は、夏休みの終わり頃から天候が不順で、校庭での練習ができない時がありました。どの学年の子供たちも力一杯頑張りました。短距離走、団体競技、団体演技などに大きな拍手をいただき大いに励みになったと思います。

さて、四月に実施した六年生の「全国学力調査」結果と、七月に実施した五年生の「学力向上を図るための調査」結果をまとめ、各学年にお知らせいたしました。調査結果から見えてきた共通の課題の一つとして、漢字の読み書きと小数の計算であることが分かりました。

六年生の正答率が東京都の平均から一番差がついたのは漢字を正しく書く問題です。

○鳥の羽を観察する。(単) 正答率六十四・九% 東京都七十九・二%

○びょういんに行く。(病院) 正答率六十二・三% 東京都七十六・四%

共に十四%近く都に比べ正答率が下回っています。

五年生は漢字を正しく読む問題です。

○読点は、打つところによって、文の意味が変わることがある。(とうてん) 正答率は四・七%で、正しく読めた児童は「

<発行>
練馬区立大泉小学校
<所在地>
練馬区東大泉 4-25-1
TEL 03-3924-0144
FAX 03-5387-2092



くわずかという結果でした。「どくてん」と読んだ児童が多かったです。

続いて小数の計算で六年生は四年生の復習問題です。

6・7910・8(5・99) 正答率五十八・四% 東京都七十一・一%で十三%近く都より下回っています。

五年生は今の学習内容で、0・12×0・5(0・06) 六十二・五%の正答率で、整数や分数の計算に比べて十%以上下回っています。

漢字を正しく読めて書くことは学習の基本であり、あらゆる教科が文字を通して学ぶことを考えれば重要な学習です。

学校でも新出漢字は書き順から教えドリルで繰り返し学習させています。更に家庭学習と連携して漢字の定着率を高めてまいります。また、算数の小数の計算は「末尾の位のそろっていない小数の減法と乗法」で小数点の位置が正答のポイントになります。加減法、乗除法にに応じて小数点をどう扱っていくか、再度指導していきます。

☆お知らせ

二年一組の田中愛教諭が病氣看護のため、今年度三月末までお休みをします。担任は新しく高松章江教諭が勤めます。また、三年一組の石黒詩織教諭が産休に入ります。担任は算数少人数の亀井まりえ教諭に代わります。算数少人数には、藤井麻美講師が入ります。ご心配とご迷惑をお掛けしますが、御理解たまわりますようお願いいたします。

10月の行事予定

- 1日(木) 都民の日(休み)
- 2日(金) 安全指導・安全点検
- 5日(月) 軽井沢宿泊学習始(五)
- 7日(水) 軽井沢宿泊学習終(五)
- 8日(木) 避難訓練(起震車)
- 委員会活動
- 10日(土) 土曜授業日
- 特別時程4時間授業
- 方面別下校
- 12日(月) 体育の日
- 15日(木) 歯科検診(全)
- クラブ活動
- 16日(金) 一学期終業式
- 19日(月) 二期始業式
- 読書旬間始
- 20日(火) 移動教室前健診(5)
- 21日(水) 武石移動教室始(5)
- 4時間授業
- 22日(木) 給食試食会(P.T.A)
- 23日(金) 武石移動教室終(5)
- 26日(月) 読書旬間始
- 27日(火) 5時間授業
- 28日(水) 学校公開日
- 29日(木) 学校公開日
- クラブ活動



《10月の生活目標》 「落ち着いて学校生活を 送りましょう」

秋の長雨やシルバーウィークのあった九月でしたが、子供たちは、自分の目標や仲間との協力を胸に日々の練習に励み、運動会に臨んでいました。一人一人が、それぞれの思いを抱き終えた運動会であったのではないのでしょうか。この経験をこれからの生活に生かせるようにしていきたいと思えます。

十月に入り、色づき始めた木々に秋を感じる頃となりました。秋といえば「読書の秋」や「芸術の秋」等といわれます。「集中すること」に適した季節です。子供たちには、この秋を「落ち着いて過ごす秋」として生活してほしいと考えています。心穏やかに学習や読書に取り組み、様々なことを学び、豊かな心を養う学校生活にしたいと思えます。

また、廊下の歩き方や校舎内の過ごし方など、一人一人が落ち着いた行動を意識しながら、安全な学校生活を送っていきけるようにも指導をしていきます。年度の折り返し地点です。今一度、自分の生活を振り返り、落ち着いた中にも、健康で活気のある学校生活を送っていきたいと考えています。

(尾崎 承子)

◎『心のふれあい相談室』について

ふれあい相談員は、浅沼玲子相談員です。
・時間は：火曜日・木曜日
9時30分～17時15分
・場所は：和室
で行います。

四年生の様子

今年の四年生はとても大所帯です。教室は八列で横幅みっちり。まだ体が小さいから、と四月に思っていたのですが、あつという間にぐんと大きくなっています。体の大きさだけでなく、心も成長している様子が見受けられます。

好奇心いっぱいこの四年生。今年は「体感」して学習することを目標に学習を進めています。

総合的な学習の時間では今年も地域の加藤さんに協力していただき、練馬大根の種まきをしました。小さな種から大きな大根ができることに「なぜだろう」「どうやって大きくなるのかな」興味津々でした。社会の「水道調べ」では校内の蛇口を数えたり、学校の水が一番多い月について予想を立てて考えたり、水道キャラバンで水の汚れを濾過する実験をしたりと、自分達の身近なことから浄水場の様子まで、幅広く知ることができました。

運動会の「DASH! でつな引き」では赤白それぞれ作戦を考えました。先に綱を引いている子はどうすればいいのか、後から追いかける子はどういう風に助ければ効果的なのか。力だけでなく知恵も出し合い、お互いが勝つために協力しました。実際に動いてみて考え、そしてまた行動に移してみる。これも「体感」だと思えます。

まだまだ結果につながらず悔しい思いや注意をされることも多い四年生。今の結果は「失敗」ではなく次につながるための「体感」と思っています。色々なことに果敢に挑戦する子どもたちに育てていきます。

(波江野 礼子)

五年生の様子

五年生は、高学年の一員として取り組んだ運動会で運動会係を全員が担当しました。運動会を自ら作る、高学年の大切な役目です。運動会がスムーズに流れ、演技や競技をする児童が輝けるのも、運動会係の存在があるからです。運動会前には、休み時間や放課後に集まり活動の準備をしてきました。責任をもって一生懸命に活動する姿は、今までと違う運動会の達成感と成長を与えてくれたと感じるものでした。

総合的な学習では5月から「米作り」に取り組んでいます。庄内平野の米農家の方を迎えて、稲作への理解を深めました。校内にある田んぼに泥だらけになりながら植えた稲は、実りの時期を向かえ穂を垂らしています。これから、収穫、脱穀など米作りの学習を、一つ一つ学び体験し、まとめていきます。また、家庭科では、炊飯の実習も控えています。米作りの学習が家庭科の実習につながります。社会科では農業の米作りについても学んでいます。一年間を通して主食の米について、教科を越えて理解を深めています。

十月下旬には、はじめての移動教室があります。今は自分たちで生活していくための係活動の打ち合わせをしています。キャンプファイヤーなど自分たちで楽しむための計画もしています。自立した生活を行う移動教室の大切な目当てに向けて準備をしています。

休み時間には、男女ともに遊ぶ姿が見られますが、室内で過ごす児童も多くいます。体力や運動経験の面で積極的な外遊びを推進し、声をかけていきます。

(遠藤 敦)

障害理解教育について

本校には五組、いずみ、ことばの3つの特別支援学級が設置されています。このような環境を生かし、子供たちは一人個性が違うことを学び、障害理解を深める学習を行っています。

障害理解の学習の柱としては、次の二つを中心に行っています。

①五組の子供たちと各学年の子供たちとの交流及び共同学習

②人権教育の一環として「福祉」の視点から体験的に学ぶ学習

交流及び共同学習では、交流給食や交流体育の他に、五組の学習ののれん作りの一部分を各学年の子供たちが体験することもしています。運動会でも、練習の時間から五組の子供たちがそれぞれの学年の中に入り、一緒に競技や演技の練習に取り組みました。日々の学校生活が障害理解の学習の場になっています。

福祉の学習では、三年生までは、教科、道徳、総合的な学習の時間を中心に、自分や友達を大切にすることや、他人の気持ちを考えることなどを学びます。

四年生からは、総合的な学習の時間を使って、体験的に障害について学びます。

四年生は、点字について学習し、実際に点字を打つ学習を予定しています。また、五年生は聴覚障害の理解を深め、手話を体験します。六年生は、車椅子体験と重度障害者の方やボランティアの方との交流をする予定です。

子供たちが、互いを認め合い、大切に合える意識を培っていけるよう、学習を進めていきます。

(佐藤 智子)

いずみ学級から

現在いずみ学級には、本校も含めて13校から37名の子供たちが、週一回決まった曜日に通ってきています。

いずみ学級に通級する子供たちは、友達との関係がとりにくかったり、自分の気持ちやうまく表現できなかったりすること、集団生活の中で何らかの課題をもっている子供たちですが、通級での指導の中で、小集団での学習やSSTなどを、子供達の辛さに寄り添いながら積み重ねていくことによって、どの子も、少しずつ落ち着いて人の話を聞いたり、学習に取り組んだりすることができるようになっていきます。これからも子供たちが自分本来の力を発揮できるように取り組んでいきたいと思えます。(田中 亨)

ことばの教室から

ことばの教室には、吃音がある、言葉の発達が気になるなど、言葉に心配のある児童が通ってきています。現在、本校を含め近隣の小学校から58名の児童が通級しています。

週に一回の個別指導が中心で、一人一人の課題に応じた学習を行っています。「伝えたい」「聞きたい」「知りたい」といった気持ちを育てることが、言葉の力を高めることに通じると捉え、やり取りを楽しくできることを大切にしています。

十月二十八日には、体育館にて恒例の学習発表会を行います。現在、少しずつ準備を進めています。劇や朗読、クイズや音楽等、さまざまな方法で表現する事への自信を高めたと思っています。

(大澤 明子)